

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-285274

(43) 公開日 平成10年(1998)10月23日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

H 0 4 M 1/66

H 0 4 M 1/66

C

H 0 4 N 1/00

H 0 4 N 1/00

C

1/32

1/32

Z

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平9-86202

(22) 出願日

平成9年(1997)4月4日

(71) 出願人 000006297

村田機械株式会社

京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

(72) 発明者 川崎 真史

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械株式会社本社工場内

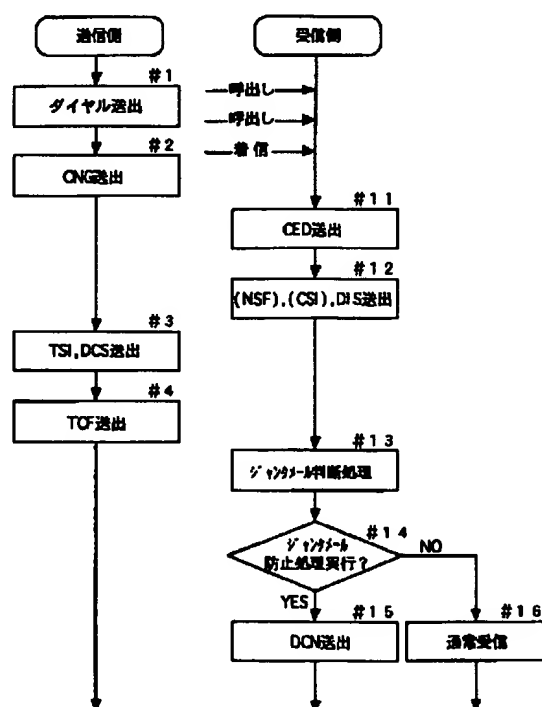
(74) 代理人 弁理士 中井 宏行

(54) 【発明の名称】 通信端末装置

(57) 【要約】

【課題】 送信は行が、受信は行わない相手の電話番号が登録できる通信端末装置を提供する。

【解決手段】 呼出先の電話番号毎に受信の拒否あるいは許可を登録した記憶部を備えて、この記憶部に登録した電話番号が指定されたときには、この電話番号の相手呼び出す。一方、他の装置から呼出があったときには記憶部を参照して、相手の電話番号に対し受信拒否が記憶されている場合は、受信しないこととする（#11～#16）。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】呼出先の電話番号毎に受信の拒否あるいは許可を登録した記憶部を備え、

上記記憶部に登録した電話番号が指定されたときには、この電話番号の相手呼び出す一方、呼出があったとき

【請求項2】請求項1において、

上記記憶部への受信の拒否あるいは許可の登録は、記憶部への呼出先の電話番号の登録時に行うことを特徴とする通信端末装置。

【請求項3】請求項1において、

上記記憶部への受信の拒否あるいは許可の登録は、相手電話番号を操作入力し、この相手を呼び出す前に行うことを特徴とする通信端末装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、受信拒否の登録出来る通信端末装置の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来から、電話機やファクシミリ装置などの通信端末装置には、短縮ダイヤル機能やワンタッチ

ダイヤル機能を備えており、少ないキー操作で、予め登録した電話番号に発呼ができるようになっている。また、これらの装置は、ダイレクトメール防止（ジャンクメール防止）機能を備えており、短縮ダイヤルなどのために予め登録した電話番号の相手から呼出があったときには受信を開始するが、それ以外の相手から呼出があったときには、受信を拒否できるようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記従来の通信端末装置では、短縮ダイヤルのために登録した電話番号に対する受信拒否ができなかった。すなわち、短縮番号などによって送信（呼出）は行いが、受信を拒否するという設定ができなかった。本発明は、このような事態に鑑みてなされたものであり、送信は行いが、受信は行わない相手の電話番号が登録できる通信端末装置を提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の請求項1に記載の通信端末装置は、呼出先の電話番号毎に受信の拒否あるいは許可を登録した記憶部を備え、この記憶部に登録した電話番号が指定されたときには、この電話番号の相手呼び出す一方、呼出があったときには記憶部を参照して、相手の電話番号に対して受信拒否が記憶されている場合は、受信しないことを特徴とする。

【0005】ここに記憶部には、短縮ダイヤル用やワンタッチダイヤル用の電話番号登録メモリを使用すればよ

イヤルキー、ワンタッチダイヤルキーが操作

に、これらに対応して登録された電話番号の出す一方、他の通信端末装置から呼出があった相手の装置の電話番号に対して受信拒否を切ったり、呼出に対して受信拒否しないように動作する。また、相手の電話番号に対して受信拒否しないことを特徴として受信許可が登録されていれば、自動着信し始める。更に、メモリに電話番号自体が登録されているときは、装置の仕様に従って、受信を許可

請求項2、3では、請求項1の記憶部へのあるいは許可の登録について提案しており、

記憶部への呼出先の電話番号の登録時には、相手の電話番号を操作入力し、この相手を呼び出す前に行うことを特徴とする。すなわち、

短縮ダイヤル用などの電話番号をキー操作メモリに登録するときに、一緒に受信拒否/登録する。請求項3では、キー操作によって直

接電話番号をダイヤルしたときに、呼出前に受信許可を設定する。そうすれば、未登録の電話番号に応じた受信拒否/受信許可とを一緒に短

縮ダイヤルなどのメモリに追加登録できる。

以下に、本発明の実施の形態について説明する。図1は、本発明の通信端末装置の一例を示したブロック図である。ここに示す通信端末装置Fの一例として、ファクシミリ装置Fの構成を説明する。図1は、本発明の通信端末装置Fの一例として、ファクシミリ装置Fの構成を説明する。図1は、本発明の通信端末装置Fの一例として、ファクシミリ装置Fの構成を説明する。

図示するように、ファクシミリ装置Fは、主制御部1、記憶部2、各種データ記憶部3、電話回線Lを接続するNCU3（網制御装置）、電話回線Lを通じてファクシミリ通信を行うためのモデム4と、テンキーや各種設定キーを備えた操作部5と、液晶画面やLEDなどで構成された表示部6と、原稿の画像を読み取り、読み取った画像データを符号化したデータを、モデム4、NCU3により、電話回線Lを通じて受信した画像データを復号して、記録紙に印字出力する。また、RAM2に記憶された相手の電話番号に対して、短縮ダイヤル用やワンタッチダイヤル用の電話番号登録メモリを使用すれば、これらに対応して登録された電話番号を自動発呼する。

【0010】本発明では、短縮ダイヤルなどに対応させて、電話番号以外に、各電話番号毎に受信の拒否あるいは許可を登録しており、電話回線を通じて呼出があったときには、この登録内容を参照して、相手の電話番号に対して受信拒否が記憶されていれば、受信しないようにしている。すなわち、主制御部1は、受信拒否の登録がされていれば、すぐに通信を終了すべく回線を切断したり、呼出に対して応答しないように動作する。一方、受信許可が登録されていれば、自動着信してファクシミリ受信を開始する。また、相手の電話番号自体が登録されていなければ、受信拒否が登録されている場合と同様に、受信を拒否すればよい。これによって、従来の受信拒否機能（ダイレクトメール防止機能、ジャンクメール防止機能）を、短縮ダイヤルなどのために登録されている電話番号に対しても、拡大して適用することが出来る。

【0011】図2は、上記した動作を送信側のファクシミリ装置（通信端末装置）の動作とともに示した図である。送信側は、ダイヤル送出（選択信号の送出）して受信側を呼び出し、これに対して受信側が着信すれば、CNGを送出する（＃1、＃2）。受信側では、通常のファクシミリ通信手順に従って、CNGに対してCEDを送出し、DIS等を送出する（＃11、＃12）。すると、送信側からTSI、DCS、TCFが送出されて来るので（＃3、＃4）、受信側では、この中のTSI（通信端末識別信号）から送信側の電話番号を抽出し、受信拒否（ジャンクメール防止処理）を実行するかどうかを判断する（ジャンクメール判断処理）。そして、ジャンクメール防止処理を実行すると判断した場合は、DCNを送出して、回線の接続を断にするが、ジャンクメール防止処理を実行しないと判断した場合には、通常の手順に従ってファクシミリ受信を行う（＃13～＃16）。

【0012】図3には、上記ジャンクメール判断処理（＃13）をフローチャートで示している。TSIを検出すれば電話番号の下4桁を抽出し、この抽出した番号と、RAM2に記憶された複数の短縮ダイヤル用などの電話番号の下4桁とを、順に比較する。この比較の結果、合致する番号があり、かつ、その番号に対して受信拒否が設定されているものがあれば、ジャンクメール防止処理へ移行し、合致する番号はあるが、受信拒否が設定されていないものがなければ（すべて受信許可が設定）、通常の受信処理へ移行する。なお、ここでは、上述した場合と異なり、番号自体の登録がないときには、受信拒否ではなく、通常の受信を行う場合を示している。このようにすれば、受信を拒否する相手の電話番号のみを登録しておけばよいことになる（以上、S100～S103）。

【0013】また、ここでは、電話番号の下4桁同士を比較する場合を示したが、これには限定されず、例え

ば、全桁比較するようにしてもよい。更に、相手の電話番号はTSIから抽出するものには限定されず、発信電話番号表示サービスを利用し、交換機から呼出前に送出されて来る発信元電話番号を検知して、これを基に受信拒否を判断するようにしてもよい。これによれば、ファクシミリ通信手順を実行しない電話機などでも、呼出に対して応答しなかったり、着信後にすぐに回線を切断するなどして、受信を拒否することが出来る。

【0014】次に、RAM2への登録の一例を図4に示す。相手の電話番号は、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルの各々に対して、2進化10進符号などによって登録されており、送信時には、操作部5の短縮ダイヤルキー、ワンタッチダイヤルキーのいずれかを操作すると、操作したダイヤルに対応した電話番号に対して呼出を行う。一方、受信時には、相手の電話番号の各々に対応して、受信拒否「1」あるいは受信許可「0」が登録されているので、これに従って受信動作を判断すればよい。

【0015】次に、このRAM2への受信拒否あるいは受信許可の登録方法について説明する。図5は、第1の登録方法を示したフローチャートである。ここでは、短縮ダイヤル用の呼出先の電話番号の登録時に、受信拒否／受信許可をあわせて登録する場合を示している。

【0016】短縮ダイヤル用の電話番号を1つずつ登録する度に、表示部6に「Junk Mail 防止しますか。Y/N」といったメッセージの表示や、LED表示がなされ、これにしたがって、操作部5の「YES」キーを操作すれば受信拒否（ON）を登録し、「NO」キーを操作すれば受信許可（OFF）を登録する（以上、S200～S208）。

【0017】また、図6には、第2の登録方法をフローチャートで示している。ここでは、相手の電話番号を操作入力し、この相手呼び出す前（送信前）に、入力した電話番号に対して受信拒否／受信許可を登録する場合を示している。操作部5のテンキーの操作によって、直接相手の電話番号の全桁を入力したときに、表示部6に受信拒否／受信許可の登録を促すメッセージが表示され、これに対してキー操作を行えば、呼び出す電話番号とともに受信拒否／受信許可を追加登録する。その後、入力操作した電話番号をダイヤルして、送信を開始する（以上、S300～S306）。

【0018】なお、この場合、電話番号が未登録であった場合にのみ、受信拒否／受信許可の登録を促すことが望ましい。これによれば、電話番号が登録されていないときに、わざわざ図5のような電話番号の登録処理を行わなくても、自動的に電話番号及び受信拒否／受信許可の登録が促されるので、このときに登録を行っておけば、以降の受信時に、この登録を参照した受信ができる。

【0019】また、ここでは、受信を許可する場合でも電話番号を登録しているが、受信拒否を登録した電話番

5

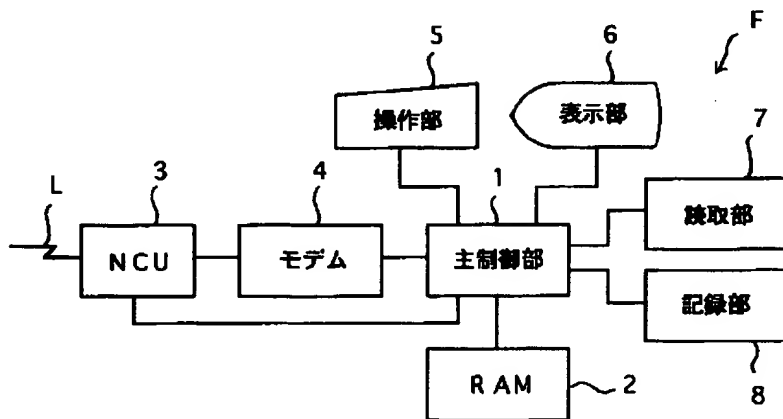
号以外の電話番号は、すべて受信を許可する場合には、電話番号を登録しないようにしてもよい。更に、この直接送信時の電話番号の登録は、短縮ダイヤル用などのメモリに追加登録するのではなく、別のメモリに登録するようにしてもよく、この場合は、受信時にこのメモリも参照の対象とする必要がある。

## 【0020】

【発明の効果】以上の説明からも理解できるように、本発明の請求項1に記載の通信端末装置によれば、呼出先の電話番号毎に受信の拒否あるいは許可を登録しておけば、登録した電話番号に対して、呼出ができる一方、受信を拒否することができる。請求項2によれば、呼出先の電話番号の登録時に、電話番号とあわせて受信拒否／受信許可が登録できる。また、請求項3によれば、相手の電話番号を直接呼び出す前に、その電話番号とともに受信拒否／受信許可が登録できる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】



【図4】

短縮/ワナツチ	相手先名称	電話番号	受信拒否(1) 受信許可(0)
短縮001	〇〇株式会社	075-123-4567	0
短縮002	× × × ×	03-9876-5432	1
ワナツチ A	(株) △ △ △	06-246-1357	1
ワナツチ B	□ □ □ □	078-222-3333	0
⋮	⋮	⋮	⋮

6

【図1】本発明の通信端末装置の要部構成の一例を示すブロック図である。

【図2】本発明の基本動作を説明するための図である。

【図3】ジャンクメール判断処理の動作の一例を示したフローチャートである。

【図4】メモリへの登録内容の一例を示した図である。

【図5】短縮番号登録の動作の一例を示したフローチャートである。

【図6】送信の動作の一例を示したフローチャートである。

## 【符号の説明】

F・・・ファクシミリ装置（通信端末装置）

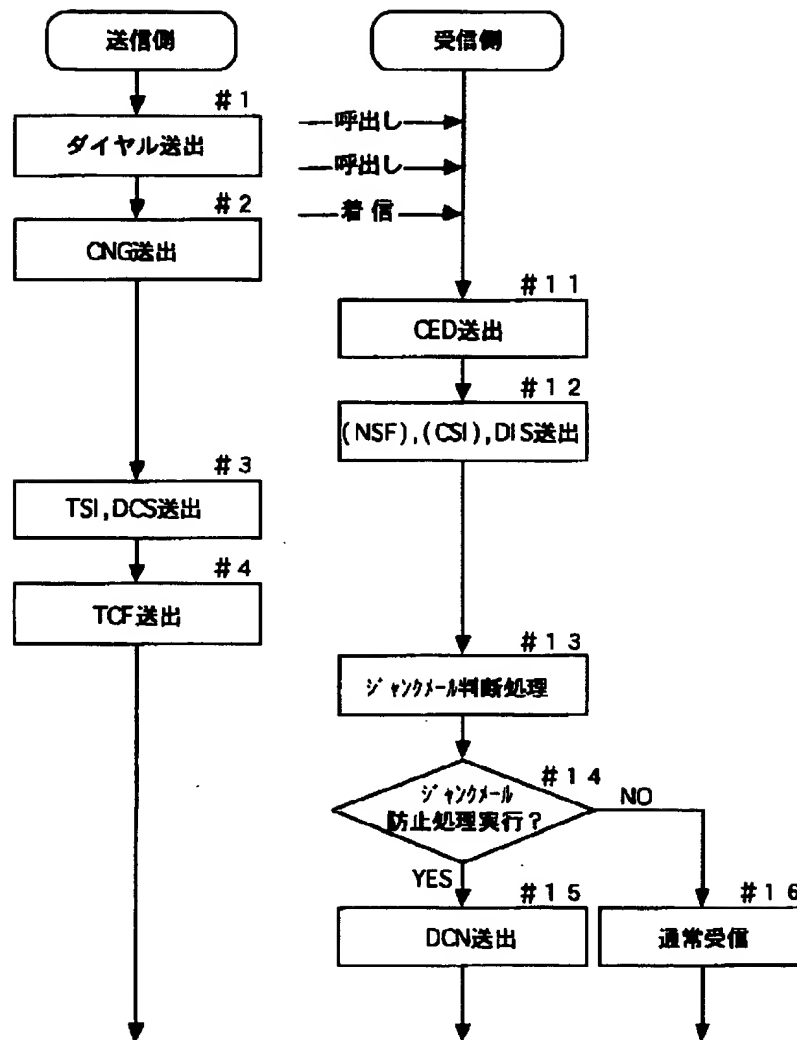
1・・・主制御部

2・・・RAM（記憶部）

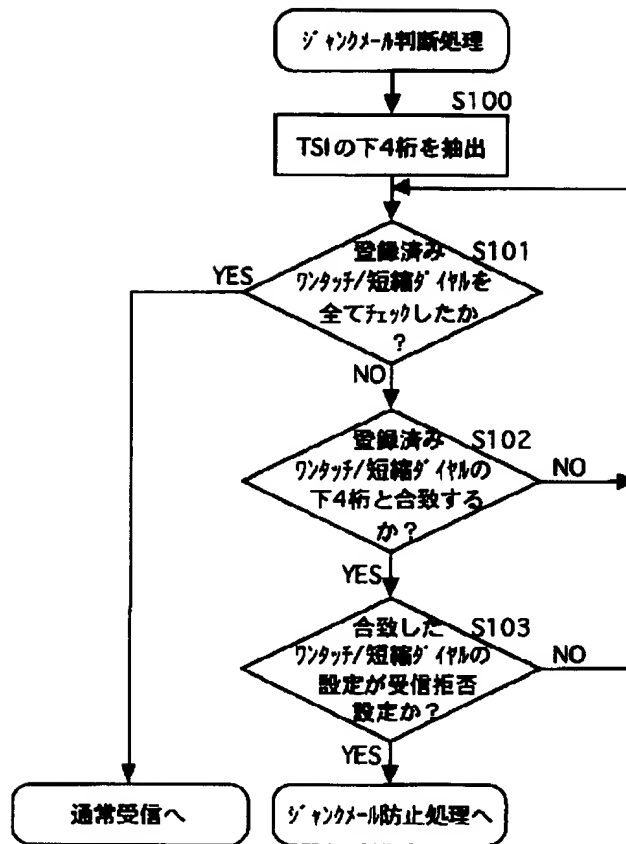
5・・・操作部

6・・・表示部

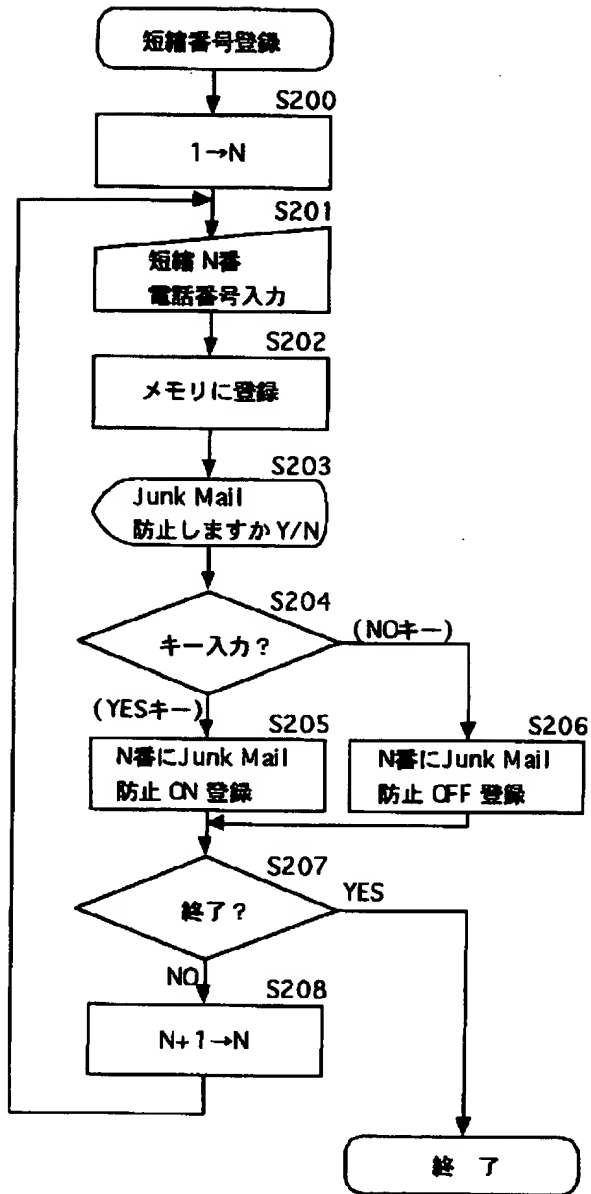
【図2】



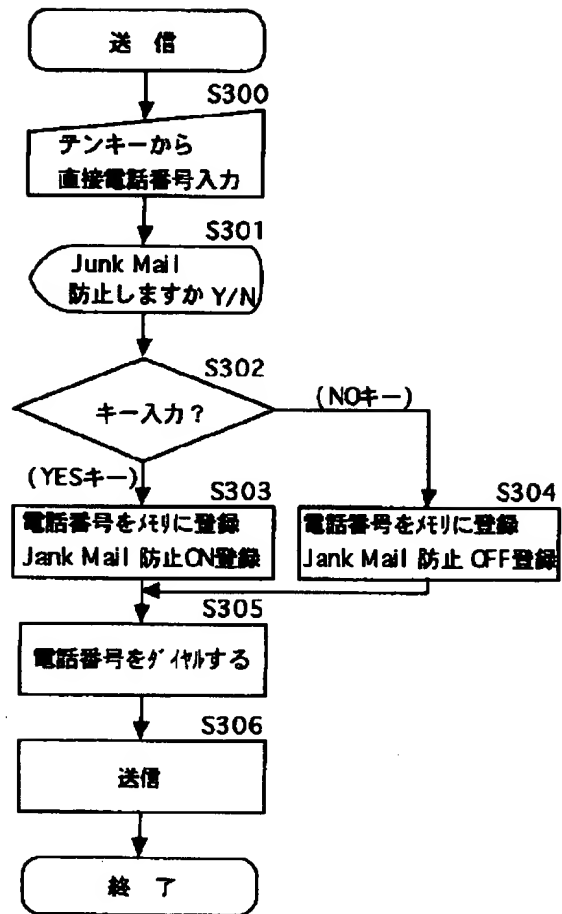
【図3】



【図5】



【図6】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**